

すみれ乳児院だより 89号

2023年7月1日発行

大阪市旭区新森7丁目8-16

発行責任者 施設長 北口 美弥子



すみれ乳児院開設50周年を祝う「すみれ乳児院50周年につどい」を行いました。

「天空の城ラピュタ・鳩と少年」でオープニング、子どもたちにゆかりのある曲をトロンボーンとピアノで奏でて頂き、目を閉じればその時々の光景が浮かび子どもたちとの思い出が鮮明によりみがえる時間となりました。また祝辞やメッセージには「これまで苦労もあったが職員のみなぎる力や強い意志でやり遂げてきたこと」「みんなが一生懸命に子どもたちのことを話し合う姿がとても心強く思えた」などが今日の乳児院を作り上げてきたのだという言葉に気持ちも新たにになりました。この日は子どもたちの1年の成長をまとめた「おおきなあれ」の表紙の移り変わりや内容を変更し、手書きからパソコンでの入力、統一性ももたせながらその子にあった内容や担当からのメッセージなど展示したり、思い出の写真も年代別に整理し展示しました。みなさん手にとり思い出話やあの子は大きくなっているだろうなあ、どうしているかな、会いたいなと思いを馳せていました。

第一次ベビーブームの1949年の出生率は4.32と過去最高から乳児院開設の翌年、第二次ベビーブー

ムといわれた1973年は2.14と減少。2020年は1.33で今後も少子化はさらに進むと予測され、子どもの数が減少していても「乳児院」という施設の必要性は今もなお高くなっています。子どもを支援するという立場だけでなく、乳児院は保護者と子どもを支える重要な支援機関となります。子どもの数が減少しようとも時代に合わせた新たな課題があり、その課題解決に向けて乳児院の機能を発揮することがこれからの役割になります。

これからの未来を担う子どもたちの世界、乳児院の在り方は何を指すのでしょうか。

今回の「50周年のつどい」ではこれから目指す乳児院の未来について若い職員に語ってもらい、今を生きる子どもたちの心を支えたくさんの「たのしい」を共に体現し子どもたちの世界が今よりもより良いものに変革させるために尽力するという力強い言葉で締めくくることができました。10年後、またその先にどのような未来が待っているのか夢と希望の満ちた世界が広がっていますように。

すみれ乳児院副施設長 菅野



子どもたちの様子



梅雨の時期になり蒸し暑い日も続いていますが、子どもたちは毎日にぎやかに過ごしています。絵本が大好きなあおいろグループの子どもたちは、毎日絵本を読む時間を楽しみにしています。「今日は何読む？」と聞くと口々に「もったいないばあさん」「虫さん」「おばけ」と見たい本を教えてください。歌の絵本では一緒に「おばけなんかないさ」を歌ったり、新しく覚えた歌を夜寝る直前まで歌っている子もいます。お兄ちゃんお姉ちゃんの歌に合わせて赤ちゃんたちはとても楽しそうに体を揺らしています。

天気の良い日には近くの公園に散歩に出かけます。最近の子どもたちのブームは虫取りです。虫取り網を手に持ってチョウチョを見つけると「あ！チョウチョ！」と言い、追いかけて捕まえようと頑張っています。逃げてしまうと「いちゃったー」と悲しそう

に捕まえたかったことを教えてください。虫を捕まえることができた日には虫かごに入れて持ち帰り、お部屋で待っている職員に「見てー！捕まえたよ！」と虫を捕まえたことを報告することがとても嬉しいようです。これから今以上に暑い日も多くなりますが、子どもたちのやりたい気持ちを尊重し毎日楽しく過ごしていきたいと思います。



あおいろグループ
門川



第46回母と子の教室

～ぎゅっとにこにこランド～

すみれ乳児院では、地域で子育てしている方がひとりぼっちの子育てにならないようにと、旧すみれ乳児院の頃から「母と子の教室」という名前で、月に1度地域の親子が乳児院に集い交流してきました。今年度は乳児院に気軽に遊びに来てもらおうと、「母と子の教室～ぎゅっとにこにこランド～」に名前を変え、月に1度開催していくことになりました。

1回目はスマートボール・輪投げ遊び・乳児院の献立レシピなどを用意しました。乳児院の子どもたちも参加して遊んでいると近所の方が親子で来てくれました。まだお子さんは5ヶ月で遊びには参加できませんでしたが、離乳食の話をしたり遊んでいる子どもたちをみて「こんな風に大きくなっていくんですね」と我が子のこれからの成長を想像しておられました。

2回目は小麦粉・片栗粉を使った感触あそびを用意しました。1回目に来られた近所の方が親子で来てくださり、一緒に感触あそびを楽しみました。これから少しずつでも輪を広げ地域の方と一緒に子育てしていく乳児院を目指していきます。





医務室からみたコロナ禍を経ての 子どもたちの変化

2017年に旭区へ移転し50人定員から35人定員になり、それぞれ6名の小規模ユニットで家庭的な生活をスタートさせた矢先にコロナウイルスが蔓延し、ようやく定着してきた職員と一緒に風呂に入ったり食事を摂ったりどこかにお出かけしたりという家庭的な日常が難しくなりました。院内で感染者や濃厚接触者が出てしまうとそのフロアをゾーニングし、職員は防護服を着用して養育支援をしました。顔や身体全体を覆う防護服を着た職員を見て怖がってしまう子どもがいました。また、外部との接触ができない部屋は活動範囲が狭まり、運動量も減り寝付きが悪くなったり、ストレスでトラブルが増えたりといつもと違う状況に子どもも職員も疲弊していく毎日でした。そんな中で嘱託医と

も相談したり、看護師としてコロナについての学習会にも参加し、子ども達にとって感染予防をしながらも今出来ることで何が最善であるか、職員の負担をどれだけ軽減できるかを試行錯誤しながら前例の無い感染症への対策、対応をしてきました。今、ようやくコロナ禍前の日常が戻って来つつあります。

この3年間で職員の顔全体や大人の裸を見たことが無い子ども達が育ってきたという現状がある中、コロナが終息したわけでは無いのでまだまだ気を抜くことは出来ませんが、私たちが本来目指していた家庭的な環境で子どもと職員みんなで笑顔を見せ合い、身体も心も健康にのびのびと過ごしていけるようにこれからも関わっていけたらと思います。

看護師 杉野



すみれ乳児院50周年のつどい



6月3日にすみれ乳児院50周年のつどいを行いました。旧職員や法人内の各施設より職員が参加され、現すみれ乳児院職員より今の乳児院の生活を紹介したり、50周年のDVDを見て歴史を振り返ったりしました。子どもたちは1階展示スペースに飾った大きな作品での参加となりました。絵の具で手形を取り、小さい木と大きい木を作りました。「未来へ向かっていく子どもたちとすみれ乳児院」というテーマで作上げた作品です。小さい手で形作られた木から子どもたちは手を取り合って歩き出し、大きな木、輝く未来へと歩きはじめます。職員も子どもたちと手をつないだり、はげまし合ったり、時にはしゃがんだり、ゆっくりゆっくり歩み出した一歩。そこには職員からのメッセージでつながった大きな虹もありました。これからも未来に向かって子どもたちの笑顔を守るあたたかい乳児院を目指していきます。

ももいろグループ 前口

